

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します

合田 直弘

5月2日にニューマーケットで行われる英国3歳3冠初戦のG1二千ギニー(芝8F)へ向けた前売りで、急浮上してきたパブリッシュ(牡3)が、今月のこのコラムの主役だ。

米国のケンタッキーダービー戦線同様、確たる主役がおらず、混戦模様となつてるのが英国の二千ギニー戦線だ。昨年の芝平地シーズンが終わった段階で、ブックメーカーによる前売り1番人気は、いずれもエイダン・オブライエンが管理する3頭に分散していた。

1頭は、アルバートアインシュタイン(牡3、父ウートンバセット)。2歳5月という早期デビューから、無敗の連勝でG3マーブルヒルS(芝6F)に優勝。しかしその後、球節の捻挫でロイヤルアスコットのG2コヴェントリーS(芝6F)を回避すると、年末まで戦列に戻ることはなかった。

2頭目は、プエルトリコ(牡3、父ウートンバセット)。2歳9月にG2シャンパンS(芝7F)を制し、デビュー6戦目にして重賞で初勝利。その後はG1ジャンルクラガルデル賞(芝1400m)、G1クリテリウムインターショナル(芝1600m)と、仏国のG1を連勝して昨シーズンを終えた。

3頭目は、シユタード(牡3、父スターバングルドバナー)。この馬もデビューは2歳5月と早く、アルバートアインシュタ

インが回避したロイヤルアスコットのG2コヴェントリーSを制し重賞初制覇。その後はG1で2着が3回続いたが、11月1日にデルマーで行われたG1BCジュヴェナイルターフ(芝8F)を制覇し、2歳シーズンを終えていた。

その3頭から、今年になって頭一つ抜けたのが、アルバートアインシュタインだった。3月16日にバリードイルで行われたメデアデーで、「これほど速い馬を私は見たことがない」と、エイダンのラッパが高らかに鳴り響いたことで、人気が急上昇したのである。ところがアルバートアインシュタインは、今季初戦となった3月28日にカラで行われたLRグラッドネスS(芝7F)で、オッズ2.1倍の1番人気を裏切り6着に大敗。二千ギニー本命の座から陥落することになった。

さらに、欧州の競馬界に激震が走ったのが、3月31日だった。アルバートアインシュタイン、シユタードの2頭が、二千ギニーのエントリーリストから消滅していることが明らかになったのである。人為的なミスだったのか、機械的なトラブルだったのか、原因は定かではないが、2頭はそれぞれ3万ポンドを支払って追加登録を行わなくては、英二千ギニーに出走することが出来なくなつた。

そんなドタバタの間隙を突いて、二千ギニーの前売り市場で浮上してきたのが

パブリッシュだった。

ジャドモンドによる英国における自家生産馬で、チャールタウンズのG2ミセスレヴィアス(芝8.5F)など2重賞を制した他、G1フラワーボウルS(芝10F)3着などの実績を残したネイレディネイの初子となるのがパブリッシュだ。ジョン&セイディ・ゴスデン厩舎から2歳7月にデビュー。サンダウンのノーヴィス(芝7F)で2着になった後、同じくサンダウンで行われたメイドン(芝7F)を制し、デビュー2戦目で初勝利。続いて出走したヘイドックのLRアセシメントS(芝8F)で、後にG2ロイヤルロジスS(芝8F)を勝つことになるパウエコー(牡3、父ナイトオヴサンダー)の2着となつて、2歳シーズンを終えていた。

4月1日にジャドモンドの主戦騎手コリン・キーンが愛国から駆け付け、ニューマーケットのライムキルنزで併せ馬を敢行。その動きが非常に良かったことから、ブックメーカー各社は同馬の二千ギニーにおけるオッズを、6倍前後にカットすることになった。

パブリッシュは4月16日にニューマーケットで行われるG3クレイヴンS(芝8F)に出走予定。まずはそこで、同馬がどのような競馬をしたかに注目いただきたい。